

# ファイールド風

(現場)からの風

宮田守男

コロナ禍でテレビドラマは再放送で埋められ、飽き足らない人を取り込みネット動画配信の加入者が急増したが、テレビドラマの撮

影が再開し、新作の放送がようやく始まった。改めて生活の過ごし方の中でテレビの存在の大きさを実感してしまう。

7月3日からの豪雨が「令和2年7月豪雨」と気象庁が命名。気象庁では、顕著な災害をもたらした大雨などの

自然現象について、防災関係機関等による災害発生後の心急・復活活動の円滑化や、後世に経験や教訓を伝える事などを目的にした命名だ。大きな災害に見舞われるたびに思い出させる言葉「あり得る

## 「あり得ないと思うことも起きる」への意識が求められている

また集中豪雨により、数十年に一度の降水量となる大雨が予想される「大雨特別警報」や「線状降水帯」などの専門用語も違和感のない言葉となっ

返される「数十年に一度の降水」の原因を気象庁は、列島から離れたインド洋の海水温度の可能性が高いと分析。地球温暖化に伴う海の高温が、雨量の増大につながる水蒸気の大発生が要因で、1時間に50ミリ以上の激

しい雨の日数が、20世紀末からの100年間で2倍になると気象庁が将来予測している。国土交通省は、洪水や巨大地震に備える防災・減災総合対策に「流域治水」を明記。ダム



平成26年発生 of 神城断層地震、被災への対応意識の継続が大切だ

や堤防の整備だけでなく、土砂災害などの危険がある地域は開発を規制し、住宅移転も促進するとした。災害前の状態まで復興する考え方への大きな変更

が、私たちの身近な生活にどのような影響を及ぼすか心配になってしまふ。温暖化防止では、政府が二酸化炭素を多く排出する非効率な石炭

火力発電所を2030年までに100基段階的に廃止との方向性を表明したが、廃止に向けた具体的な取り組みや制度の在り方の論議はこれからだ。原発再稼働の論議が必然的な理由とならないか心配になってしまふ。ブラジルの国立宇宙研究所が今年1~6月のアマゾン熱帯雨林の破壊面積が前年対比25%増の3069平方キロで、この時期として過去最大だと発表した。世界的視野で問題解決を論議してほしいと願うばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)